

Prologue
01

みんな悩んでいる

社会人になって2～3年経つと、「このまま行くと自分は将来こうなるのではないか」ということが見えてきます。それが明るい未来なら良いのですが、そうではない人が大半でしょう。大半の人は、こういうことを思っているはずです。

「もしかしたら、自分は将来、リストラされてしまうかもしれない」

「自分たちが定年になる頃には、退職金制度も年金制度も崩壊しているかもしれない」

「このまま一生、結婚できなくて、孤独な老人になるのかもしれない」

「マンションも買えず、家賃も払えなくなって、路頭に迷うことになるかもしれない」

「ずっと誰にも認められないまま、意味の無い人生で終わるのかもしれない」

もしも、こういうことを少しも思ったことがないという人がいたら、その人はかなり恵まれているか、かなり現実逃避しているかのどちらかです。普通でまともな人であれば、必ず一度は思ったことがあるでしょうし、今も心のどこかで思っているでしょう。

でも、それと同時に、こんなことも思ったことがあるはずです。

「あんな使えないオッサンよりも、自分の方が明らかに優秀だ」

「それなのに、あのオッサンの方が自分よりも給料が高いっていうのは、絶対におかしい」

「こんな会社は、ダメだ！ いまだに年功序列なんて、時代遅れだ！」

「馬鹿馬鹿しい！ 近いうちに、辞めてやる！」

「自分には、もっと適した仕事があるはずだ！」

社会人になって2～3年経っても、こういうことを一度も思ったことがないという人は、かなり幸せです。そんな幸せな人は、ほとんどいません。大半の人は、こういうことを、これまでに何度も思ったはずですし、今も思っている人もいます。

しかも、こういう怒りを感じていること自体、自分が間違っていると自覚していると思います。もしも自覚がないとしたら、つまり自分が正しいと思っているとしたら、その人は相当浅はかです。20代の方は数年しか働いたことがないので、自分以外の人の方が正しい可能性が高いでしょう。

でも、自分が間違っていると分かっているにもかかわらず、怒りの感情は湧いてきてしまいます。そして、そういうふうになり、怒りが湧いてくることもあれば、最初のように不安になることもあるでしょう。怒りと不安のどちらか一方だけという人は、あまりいないと思います。どちらかの方が強いということはあるでしょうが、大半の人はどちらの感情も持っていることなのでしょう。そして、時によって、その両方の感情の間を、行ったり来たりしているわけです。

ただし、不安と怒りのどちらかにいるというわけではなくて、穏やかで平和な気持ちになっている時だってあります。そういう時は、こんなことを考えている人が多いようです。

「自分の今の立場と生活が、このままずっと続けばいいのに」

「別に出世したいわけじゃないし、普通に生活できればそれでいいし」

「自分は仕事なんかよりも、プライベートを充実させたい」

「バリバリ働くんじゃないで、和気藹々の職場で楽しく働けるのが理想的」

「仕事も大体覚えたり、トラブルさえなければ楽勝でしょ」

こういう気持ちでいる時は、とても平和に過ごせます。そして、「とりあえず今は、この会社にいてもいいかな」と思っています。

ただし、こういう時は、何の問題意識もないので、あんまりがんばりません。そして、油断しているので、ミスをしやすくなります。だから、上司や先輩に叱られることになりがちです。

すると、不安になったり、怒りが湧いてきたりするのです。つまり、平和な気持ちが、不安や怒りを生み出す原因になっているわけです。そして、不安や怒りは、時間と共に自然に薄らいでいきますから、そのうちにまた平和な気持ちに戻ります。このようにして、平和と不安と怒りの間を、グルグル回り続けるということになるのです。

これは、非常に不安定な状態です。だから当然、安定させたいと思います。でも、どうやったら安定させることができるのかが分かりません。そういうことで悩んでいる人が、とても多いのです。

Prologue
02

20代のうちに正しい習慣を身に付ける

社会人を2～3年もやっていれば、自分を客観的に見る余裕が生まれます。すると、焦りを感じる人もいます。その人たちは、大体こんなことを考えています。

「このまま同じ仕事ばかりやっても、実力が付かないんじゃないだろうか？」

「今の会社（部署）にこのままいたら、将来性がないんじゃないだろうか？」

「自分は同期の仲間よりも、実力が付くのが遅いんじゃないだろうか？」

「何かの資格を取らないと、マズイことになるんじゃないだろうか？」

「もっと積極的に人脈を広げないと、自分だけが取り残されてしまうのではないか？」

このような焦りが生じると、居ても立ってもいられない気分になるでしょう。そして、とにかく早く何かを始めなければと思うでしょう。

でも、具体的に何を始めればいいのか、見当もつきません。目標が明確でなければ、何をすべきかは分からないのです。

そして、目標が明確な人は、既にそれに向けて何かの努力を始めているでしょうから、先ほどのような焦りは生まれません。つまり、焦りが生じるということは、明確な目標がないということなのです。

だから、そういう人は、次のようなことで悩むこともあるでしょう。

「何のために仕事をしているのか分からない」

「生活費のためだけに仕事をするのは、むなしい」

「自分が何をしたいのか、自分でも分からない」

「何となく、やる気が出ない」

「毎日が同じように、無意味に過ぎていっているだけだ」

このような無気力感がある人は、仕事に対して真剣に取り組むことができないでしょう。だから当然、大した成果を上げられません。それに、実力もなかなか付きません。そのため、なかなか大きな仕事を任せてもらえなくなります。そうなると、目標を持ちにくくなりますので、焦りを感じたり、無気力になったりしがちです。このように、堂々巡りになってしまうのです。

この堂々巡りから脱出するためには、どこかで踏ん切りを付けて、仕事に真剣に取り組むしかありません。でも、それができないからこそ、悩んでいるわけです。だから、一度この堂々巡りに入ってしまうと、なかなか出ることができないのです。

そうなる、それが習慣化します。そして、習慣化してしまうと、それを直すのは容易ではありません。だから、ますます、堂々巡りから出ることが難しくなってしまうのです。

最初に説明した、平和と不安と怒りの堂々巡りも、全く同じです。一度その堂々巡りに入ってしまうと、なかなか出ることができません。そして、そのうちに習慣化して、ますます脱出することが難しくなるのです。

20代のうちに、そういうことが習慣化してしまうと、そのまま30代、40代になってしまう恐れがあります。そうなってしまったら、もう変わることはほとんど不可能でしょうから、そのまま50代、60代になってしまうでしょう。つまり、一生そのままという可能性が高いのです。

でも、20代のうちなら、まだ変われます。何しろ、社会人になってから、まだ数年しか経っていないのです。少し努力すれば、絶対に変われます。

そして、20代のうちに正しい習慣を身に付けてしまえば、そのまま30代になっても40代になっても、正しい習慣を続けることができます。だから、20代というのは、社会人としての正しい習慣を身に付けるための年代なのです。

そういう習慣を身に付けるためには、その前に、平和と不安と怒りの堂々巡りや、焦りと無気力の堂々巡りから、脱出する必要があります。これが難しいため、大半の人が正しい習慣を身に付けられないまま、20代を終えてしまうのです。

だからと言って、悲観的になる必要は全くありません。むしろ、これはチャンスです。大半の人が20代のうちに正しい習慣を身に付けられないのですから、それができれば、それだけで大きく前進することになるわけです。

このテキストは、それを目的にしたものです。つまり、平和と不安と怒りの堂々巡りと、焦りと無気力の堂々巡りから脱出し、しかも社会人としての正しい習慣を身に付けられるようになるということです。

ただし、当たり前ですが、テキストを読んだだけでは習慣を身に付けることはできません。テキストに書いてあることを、各自がちゃんと実行してくれることが大前提です。

誰だってお金持ちになれる

実は、平和と不安と怒りの堂々巡りと、焦りと無気力の堂々巡りを、一発で解消する方法が一つだけあります。その方法は、恐らく皆さんも、とっくにお気づきのことだと思います。

それは、お金持ちになるという方法です。勿論、お金さえあれば無条件に超ハッピーになれるというわけではありません。幸せになるためには、お金以外にも色々な条件が必要です。でも、お金がある程度以上あれば、先ほどの2つの堂々巡りから脱出できるきっかけにはなります。

お金持ちになれば、不安になることは激減します。しかも、お金がありますから、下働きのような仕事をする必要はありませんので、上司や先輩から叱られることがなくなります。だから、ムカつくこともありません。それに、焦りを感じることはなくなります。しかも、お金があるので色々なことができ、目標を持ちやすくなって、無気力になることもありません。それに何より、お金持ちになろうと努力をする段階で、幸せになるための色々な条件を手に入れることができます。お金で幸せになるのではなく、お金持ちになる努力をすることで、幸せになれるのです。

なぜなら、そういう努力をきちんとしている人は、モテるからです。異性からモテるだけでなく、同性からもモテます。一目置かれると言った方が正しいかもしれません。それに、おじさんからもおばさんからも、一目置かれます。さらに、子供からも、一目置かれます。だから、将来結婚して子供ができた時、親として尊敬されます。お金持ちになる努力をすると、そういう人になれるのです。

とは言え、そう簡単にお金持ちになることはできません。だから、大半の人は、お金持ちになることを、半ば諦めているのだと思います。

確かに、資産が何億円もあるような大金持ちになることは、普通の人にはほとんど不可能です。だから、そんなものを目指すのは、やめた方がいいでしょう。

でも、少しだけお金に余裕があるという程度だったら、どうでしょうか。例えば、年収1000万円。

大半の人は、「それは理想だけど、自分にはたぶん無理」と思っているのではないのでしょうか。そして、そう思う理由は、恐らくこんなところでしょう。

「自分は、さほど学歴が高くない」

「自分には、特別な才能はない」

「自分は、それほど出世したいと思っていない」

「自分の会社では、出世したとしても、年収1000万円ももらえない」

「自分は、年収1000万円ももらうほど、忙しく働きたくない」

以上のような理由は、どれも年収1000万円もらうための障害にはなりません。特別な学歴や才能なんてなくても、年収1000万円は稼げます。それに、特に出世しなくても、しかも小さな普通の会社に勤めている人の中にも、年収1000万円の人は実際にいます。そして、そういう人が、必ずしも長時間労働というわけでもありません。

だから、以上のような理由で「年収1000万円は無理」と思っているのは、単なる思い込みなのです。年収1000万円くらいだったら、やるべきことをちゃんとやれば、誰にでも稼げます。しかも、やるべきことというのは、誰にでもできることばかりなのです。

なぜ、そんなことを断言することができるのかということ、年収1000万円以上の人たちのことを、ものすごくたくさん調べたからです。何十人もインタビューしましたし、何千人ものアンケートもしました。

私がそんなことをした理由は、レクサスの日本導入プロジェクトに関わっていたからです。レクサスは、トヨタ自動車の世界65か国で展開している高級ブランド車です。レクサスは高級車ですから、日本に導入するにあたって、日本のお金持ちのことを調べる必要があったのです。ただし、レクサスはフェラーリほど高くはありません。レクサスのターゲットは、お金持ちとは言っても、年収800万円から1500万円くらいの人たちなのです。言わば、プチリッチです。

そして、このプチリッチの人たちのことを調べてみると、その中には、いわゆるエリートとは異なる人たちがかなりたくさん含まれていることが分かりました。つまり、特別に学歴が高いわけではないし、大企業に勤めているわけでもなかったということです。しかも、やたらと長時間働いているわけでもなければ、普通の人にはできない特殊な仕事をしているわけでもありませんでした。それなのに、年収が1000万円あるという人たちが、かなりたくさんいたのです。

そういうプチリッチの人たちのことを、さらに詳しく調べました。すると、プチリッチの人たちには、かなり多くの共通点があることが分かりました。彼ら・彼女らは、似たよ

うな考え方を持っており、似たような行動をとっていたのです。そして、そのような考え方、そのような行動をしていることが、彼ら・彼女らをプチリッチにしているということが分かったのです。

でも、その考え方や行動は、さほど特殊なものではありません。やろうと思えば誰にでもできることばかりですし、皆さんが既にやっていることも含まれていると思います。そういうちょっとしたことの積み重ねによって、プチリッチになることができるのです。

実際、プチリッチの人たちは、先ほども言ったように、特別なエリートではありません。それなのにプチリッチになれたのは、彼ら・彼女らが、会社に必要な存在、つまりオンリーワンの存在になっているからです。

オンリーワンの存在というと、難しいことのように感じるかもしれませんが、そうではありません。誰にでもできることをするだけでも、オンリーワンになることはできるのです。誰にでもできることなのに、なぜか大半の人たちがやっていないことは、意外にたくさんあります。例えば、困っている人の手助けをすることは、誰にでもできますし、やった方がいいということは、誰にでも分かっています。でも、そういうことを日常的にやっている人は、かなり稀です。だから、そういうことを日常的にやっていたら、オンリーワンになれます。

プチリッチの人たちは、そうやってオンリーワンになりました。つまり、人として当たり前前のことを当たり前にしていただだけで、いつの間にかオンリーワンになったのです。その結果として、年収1000万円になったわけです。

このテキストでは、そういう会社になくはない存在になってプチリッチたちの考え方や行動を紹介しています。だから、このテキストで紹介している考え方や行動を全て実行すれば、皆さんもプチリッチになることができるでしょう。全てを実行することができなかったとしても、5つくらいのことを実行すれば、プチリッチにはなれなくても、少なくともリストラされたり路頭に迷ったりすることはなくなると思います。

プチリッチたちの考え方や行動を実行するということは、本当の意味で子供から大人になるということです。それができれば、将来の不安におびえることもなくなりますし、妙な怒りが湧いてくることもなくなります。しかも、安穩として油断することだってなくなります。だから、余計なことに精神的なエネルギーを無駄にすることなく、効率よく働くことができるようになるのです。

Prologue
04

オンリーワンになることでプチリッチになる

■日本に存在する、4つのタイプのお金持ち

「レクサスを日本に導入するには」というレクサス・プロジェクトにおける研究によって、日本のお金持ちには4つのタイプが存在していることが分かりました。つまり、日本でお金持ちになるためには、4つの方法があるということです。

最初に言っておきますが、その4つの方法の中には、株などで儲けるという方法は入っていません。そういう方法でお金持ちになった人もいないわけではありませんが、ものすごく少数しかいないのです。

株などの金融手法で儲けることができるのは、基本的には元々お金持ちの人だけです。掛け金が大きくなるとなかなか儲かりませんから、それが当然なのです。だから、そういう方法で大儲けすることを夢見るのは、本当に夢の中だけにしておいた方が無難です。

それはさておき、日本のお金持ちの4つのタイプを紹介しましょう。

最初に紹介するのは、最も古典的なお金持ちです。それは、先祖代々お金持ちだったという人たちです。このタイプのお金持ちは、目指してもなれませんから、あまり詳しく知る必要はないでしょう。因みに、このタイプのお金持ちは、日本人全体のうち2%くらいいます。

次のタイプのお金持ちも、かなり古くから存在しています。それは、サラリーマンとして成功し、上級管理職になったり役員になったりした人たちです。これなら、目指すことが可能です。そして、多くの人たちは、これを目指しています。

でも、このタイプのお金持ちになることは、かなり困難です。なぜならば、多くの人たちがこのタイプのお金持ちになる競争に参加しているからです。だから、その競争は非常に厳しく、並大抵のことでは勝つことができません。

1対1の競争であれば、1/2の確率で勝てます。でも、10人が参加している競争では、9/10の確率で負けます。ましてや何百万人も参加している競争では、ほとんど勝てる見込みはありません。だから、このタイプのお金持ちを目指しても、高い確率でお金持ちにはなれないということになります。そのため、お金持ちになれない人がほとんどなのです。

大半の人にとっては、このタイプのお金持ちになるための競争に参加すること自体が、無駄です。よほど高い学歴で、よほどストレスに強い人だけが、挑戦すればいいでしょう。それでお金持ちになれている人は、日本人全体のうち7%くらいいます。つまり、9割以上の人たちは、この競争には勝つことができないということです。

でも、だからと言って、お金持ちになることを諦めるということではありません。日本のお金持ちには、まだあと2つのタイプがあるのです。

3つ目のタイプは、何らかのスペシャリストとして活躍することで、お金持ちになっている人たちです。弁護士や医者など、何らかの資格を必要とするスペシャリストもいますし、デザイナーやプログラマーなど、実力だけが問われるスペシャリストもいます。それから、ベンチャー企業の経営者なども含まれます。このタイプのお金持ちは、日本人全体の5%くらいです。

いずれの分野のスペシャリストも、この方法でお金持ちになれた人たちは、スキルが優れているというよりも、目の付け所が良いという特性があります。他の人たちとは、少し違うことをすることによって、オンリーワンの存在になったからこそ、お金持ちになれたのです。

そして、この人たちは、サラリーマンではない人がほとんどです。元々はサラリーマンだった人たちもいますが、脱サラして独立しています。あるいは、これから独立しようとしている途中です。

そういうわけですので、この人たちは経済的に不安定です。今はお金持ちですが、今後はどうなるか分かりません。しかも、この人たちの中には浪費癖がある人が多い（仕事の付き合いなどで仕方がない面もあります）という点でも、経済的に不安定なのです。ですので、このタイプのお金持ちを目指すのは、あまりお奨めできません。

■会社の中でオンリーワンの存在になる

お奨めしたいのは、4つ目のタイプのお金持ちです。レクサスがターゲットにしているお金持ちは、実はこのタイプの人たちです。つまり、このテキストで紹介しているプチリッチになる習慣は、このタイプのお金持ちがやっていることなのです。

このタイプのお金持ちの大半は、サラリーマンです。しかも、特に出世していない人もたくさん含んでいます。それなのに、お金持ちなのです。

それは、その人が会社の中で、なくてはならないオンリーワンの存在になっているからです。出世などしなくても、その会社の中でなくてはならない存在になれば、給料は自動的に上がります。

しかも、そういう存在になる方法は、千差万別です。スキルを高めるというのは王道で

すが、それ以外にも色々な方法があります。

例えば、お得意さんと猛烈に仲良くなるという方法があります。それから、みんなが嫌がる仕事を進んでやるという方法もあります。自分が所属しているセクション以外の人たちから絶大な信頼を得ているという方法もアリですし、定年間近のオジサン社員たちから異様に人気があるという方法だってアリです。

実際、レクサス・プロジェクトの際にお会いした、4つ目のタイプのお金持ちの人たちは、そういうことをしていました。ですから皆さんも、自分に合った方法を探して、それを実践すればいいと思います。この方法でお金持ちになっている人たちは、日本人全体の6%くらいです。

とにかく、みんなと同じことをやってもダメです。みんなと同じことをやっているだけでは、普通です。そして、普通だったら、後輩の中の優秀な人に抜かれてしまいます。それでも構わないなら、それでもいいのですが、それが嫌なら、みんなと違うことをする必要があります。

ただし、みんなと違うことをして、マイナスになってしまうようでは、目も当てられません。正しい方向に、みんなと違うことをする必要があります。

その基本が、このテキストで紹介している、プチリッチになる習慣なのです。だから、プチリッチになる習慣を身につけた上で、自分なりの自分に合った習慣を付け加えてください。そうすれば、あなたも必ず、あなたらしいプチリッチになれます。

